



タガソデソウ	<i>Cerastium pauciflorum</i> Steven ex Ser. var. <i>amurense</i> (Regel) M.Mizush.	絶滅危惧I類
(環境省:絶滅危惧II類)		ナデシコ科
選定理由	生育面積が狭く、過度に分断されている。個体群が極めて小さい。	写真(岐阜県博物館) 標本 
形態の特徴	茎は直立し、高さ30-50cmになる。葉はほぼ無柄、披針形~卵状披針形、長さ4-9cm。頂生する集散花序で、小花柄は2-5cm。萼片は楕円形~卵状披針形で長さ4-6mm。花弁は白色で長楕円状へら形、全縁、長さ約15mm。朔果は円筒状で、長さ7-10mm、先は10裂する。	
生態的特徴	山地のやや湿った草地に生育する。	
分布状況	シベリア東部、アムール、ウスリー、中国東北部、朝鮮半島に分布。日本には本州中部にまれ。岐阜県では県北東部に分布する。	
減少要因	本県はタガソデソウの分布の西端になる。生育地の開発、農耕放棄による草地の消失などによって生育環境が減少している。	
保全対策	草地の保全。	
特記事項		
参考文献	北川政夫(1982)ナデシコ科. 日本の野生植物1離弁花類. 平凡社	

文責:千藤克彦